



令和5年11月10日
北九州国際映画祭実行委員会事務局
北九州市市民文化スポーツ局

報道機関各位

「北九州国際映画祭」 【特別企画】青山真治監督追悼特集上映 企画名、上映会場、ご登壇ゲストの決定、及び 上映作品詳細等のお知らせ

本年7月27日に別紙により記者発表を行った上記企画について、企画名、上映会場及びご登壇ゲスト（一部）の決定、上映作品の詳細についてお知らせいたします。

1 企画名

帰れ北九州へー青山真治の魂と軌跡

2 上映日及び上映会場

(1) 上映日

令和5年12月14日（木）～17日（日） ※ 上映時間は別途お知らせいたします。

(2) 上映会場

小倉昭和館 及び J:COM北九州芸術劇場・中劇場

※ 小倉昭和館のこけら落としとして実施。

3 ご登壇ゲストなど

^{みついしけん}光石研氏（当企画のスタート。映画『共喰い』上映時にご登壇）、
^{さいとうよういちろう}齊藤陽一郎氏、^{たかはしよう}高橋洋氏、俳優・青山監督の妻である ^{まほ}とよた真帆氏、
プロデューサー・^{せんとうたけのり}仙頭武則氏、^{さとうくみ}佐藤公美氏のご登壇が決定しました。

※ 上記ゲストのご登壇機会等詳細、その他ゲストなどについては今後、お知らせいたします。

4 上映作品の詳細

(1) 『Helpless』

北九州に暮らす高校生の健次は、仮出所した幼馴染の安男に再会。ヤクザの組長を探す安男から鞆と妹のユリを託され、思わぬ暴力沙汰に巻き込まれていく。青山監督の初の劇場用映画であり浅野忠信の初主演映画となった本作は、国内外の映画祭に多数出品され大きな評価を得た。



©1996 WOWOW /バンダイビジュアル

監督・脚本：青山真治 撮影：田村正毅

出演：浅野忠信（白石健次）、光石研（松村安男）、★辻★香緒里（松村ユリ）、
齊藤陽一郎（秋彦）

79分 日本 1996年

※ ★辻＝公式の表記はしんによりの点が1つです。

(2) 『EUREKA』

バスジャック事件の被害者となった運転手の沢井真と、乗客の田村直樹・梢兄妹。生活が一変し心に大きな傷を負った彼らは、もう一度人生をやり直すため、兄妹の従兄を連れあてのない旅に出る。本作はカンヌ国際映画祭で大絶賛され、世界中に映画作家青山真治の名前を知らしめた。

*カンヌ国際映画祭国際批評家連盟賞&エキュメニク賞をW受賞、シンガポール国際映画祭最優秀アジア映画賞受賞

監督・脚本：青山真治 撮影：田村正毅

出演：役所広司（沢井真）、宮崎あおい（田村梢）、宮崎将（田村直樹）、齊藤陽一郎（秋彦）、光石研（シゲオ）、松重豊（松岡）、利重剛（犯人）

217分 日本 2000年



©J-WORKS FILM INITIATIVE

(3) 『サッド ヴァケイション』

安男の妹ユリを連れ各地を転々としていた健次は、自分を捨てた母親に偶然再会。彼女の現夫が営む運送会社「間宮運送」で働き出す。そこには、かつてバスジャック事件の被害者として旅に出た梢もいた。『Helpless』『EUREKA』の登場人物が一堂に会した、“北九州サーガ” 3 作目にして最終章。

*ヴェネチア国際映画祭オリゾンティ部門に正式出品



©間宮運送組合 2007

監督・原作・脚本：青山真治 撮影：たむらまさき

出演：浅野忠信（白石健次）、石田えり（間宮千代子）、宮崎あおい（田村梢）、板谷由夏（椎名冴子）、中村嘉葎雄（間宮繁輝）、高良健吾（間宮勇介）、畔上真次（アチュン）、光石研（茂雄）、斉藤陽一郎（秋彦）、★辻★香緒里（松村ユリ）、オダギリジョー（後藤）

136分 日本 2007年

(4) 『東京公園』

カメラマン志望の光司は、見知らぬ男からの「自分の妻を尾行し撮影してほしい」という依頼を、困惑しながらも引き受ける。彼女を追いかけ東京中の公園を回るうち、彼は自分にとって大事な女性たちとの関係を振り返ることに。青山監督の新境地ともいえる清々しいラブストーリー。

*ロカルノ国際映画祭金豹賞審査員特別賞受賞



©2011「東京公園」製作委員会

監督：青山真治 原作：小路幸也『東京公園』 脚本：青山真治、内田雅章、合田典彦
撮影：月永雄太

出演：三浦春馬（志田光司）、榮倉奈々（富永美優）、小西真奈美（志田美咲）、井川遥（初島百合香／志田杏子）、高橋洋（初島隆史）、染谷将太（高井ヒロ）

119分 日本 2011年

(5) 『共喰い』

暴力的な父を嫌悪しながら、彼と日に日に似てくる自分に怯える高校生の遠馬。父と息子をつなぐ血縁関係は、周囲の女性たちを巻き込みながらある事件へと導かれる。原作は芥川賞を受賞した田中慎弥の小説『共喰い』。物語の舞台は昭和末期の下関だが、撮影は北九州で行われた。

*ロカルノ国際映画祭 YOUTH JURY AWARD 最優秀作品賞 & ボッカリーノ賞最優秀監督賞を W 受賞



©田中慎弥/集英社・
2013『共喰い』製作委員会

監督：青山真治 原作：田中慎弥『共喰い』 脚本：荒井晴彦 撮影：今井孝博
出演：菅田将暉（篠垣遠馬）、木下美咲（千種）、篠原友希子（琴子）、光石研（篠垣円）、田中裕子（篠垣仁子）

102分 日本 2013年

(6) 『空に住む』

両親を突然亡くし、叔父夫婦が所有する高層マンションに、愛猫ハルと暮らし始めた出版社勤務の直実。やがて彼女は、同じマンションに住む人気俳優の時戸森則と知り合い不思議な関係を結ぶことに。一人の女性が前を向き再び歩き出すまでを描いた本作は、青山監督の遺作となった。

*釜山国際映画祭アジアの窓部門に正式出品



©2020 HIGH BROW CINEMA

監督：青山真治 原作：小竹正人『空に住む』 脚本：青山真治、池田千尋
出演：多部未華子（小早川直実）、岸井ゆきの（木下愛子）、美村里江（小早川明日子）、
岩田剛典（時戸森則）、鶴見慎吾（小早川雅博）

118分 日本 2020年

(お問い合わせ先)

北九州国際映画祭実行委員会事務局

市民文化スポーツ局文化企画課

担当：村田、堀池 電話：093-582-2389

「北九州国際映画祭」 【特別企画】青山真治監督・追悼特集上映を実施

令和5年12月13日～17日に開催する「北九州国際映画祭」の期間中、令和4年3月に逝去された青山真治監督の追悼特集上映を、青山監督の出身地である北九州市の映画祭において、特別企画として実施いたします。

1 企画概要

映画監督・青山真治氏の追悼上映企画として、北九州サーガ3部作とされる、長編映画デビュー作『Helpless』、カンヌで世界の絶賛を浴びた『EUREKA ユリイカ』、3部作の最終章『サッド ヴァケイション』。さらには同名の芥川賞受賞作を原作とした『共喰い』、『東京公園』、最後の劇場公開となった『空に住む』まで、青山監督作品を北九州市の映画館で特集上映し、その軌跡をたどります。映画監督にとどまらず、音楽家、小説家としても活躍し、舞台演出、批評家でもあった監督と関係の深い関係者、同作品の出演者等をゲストに迎え、青山監督とのエピソードや、作品に対する思いなどを語っていただきます。北九州の地で、かつて青山作品が上映された映画館で、もう一度青山真治作品と向き合う特集として企画いたします。

(1) 実施期間

令和5年12月14日（木）～17日（日）

(2) 実施場所

市内映画館

(3) 上映作品・ゲスト

『Helpless』(1996)、『EUREKA ユリイカ』(2000)、
『サッド ヴァケイション』(2007)、『東京公園』(2011)、
『共喰い』(2013)、『空に住む』(2020)を予定。
上映スケジュール、詳細は今後、発表いたします。

2 青山真治監督プロフィール

写真：青山真治 撮影：池田正之

1964年福岡県北九州市出身。

1996年、地元・福岡県の門司を舞台にした『Helpless』で長編映画デビュー。自ら脚本・音楽も手がけた本作は低予算ながら、その乾いた人間関係や暴力描写などが高く評価され、トロント、ウィーン、トリノなど数多くの国際映画祭に出品される。その後も『チンピラ』(96)、『WiLd LiFe』(97)、



『冷たい血』(97)、『シェイディー・グローヴ』(99)、『EM/エンバーミング』(99)など精力的に作品を送り出す。

そして2000年の監督作品『EUREKA ユリイカ』で、第53回カンヌ国際映画祭コンペティション部門に招待され、国際批評家連盟賞とエキュメニク賞をW受賞するという快挙を成し遂げる。

更にベルギー王立フィルムアーカイブより「ルイス・ブニュエル黄金時代賞」を獲得し、名実ともに世界にその名を知られるようになる。

以降も、作家・中上健次を巡るドキュメンタリー『路地へ中上健次の残したフィルム』(00)、2年連続でカンヌ国際映画祭コンペティション部門に招待された『月の砂漠』(01)、ベルリン国際映画祭に出品された『私立探偵濱マイク・名前のない森』(02)、東野圭吾原作ミステリーの映画化に挑んだ『レイクサイド マーダーケース』(04)と作品を重ねる。

05年には、『エリ・エリ・レマ・サバクタニ』でカンヌ国際映画祭“ある視点”部門へ、翌06年の『こおろぎ』、そして07年の『サッド ヴァケイション』(07)では2年連続でヴェネチア国際映画祭オリゾンティ部門に招待されるなど、日本が誇る世界的映画監督である。

また自らの監督作品等で脚本を手がける一方、01年に初めて手がけた自作のノベライズ小説『EUREKA』で第14回三島由紀夫賞を受賞するなど小説家としても活動。

05年には『ホテル・クロニクルズ』で第27回野間文芸新人賞候補にノミネートされた。

2011年の『東京公園』では、小路幸也の原作を柔らかであたたかな視線で映像化し、新境地をみせている。この作品で、第64回ロカルノ国際映画祭にて、金豹賞(グランプリ)審査員特別賞を受賞。

また、同年、舞台初演出となる作品「グレンギャリー・グレン・ロス」(出演:石丸幹二、坂東三津五郎 他)が、銀河劇場を皮切りに公演となった。

続いて、「おやすみ、母さん」(出演:白石加代子・中嶋朋子)を池袋あうるすぽっとで、公演。その後も、数々の舞台演出に挑戦している。

2013年には『共喰い』で、第66回ロカルノ国際映画祭にて、ポッカリーノ賞最優秀監督賞を受賞、第68回毎日映画コンクールで脚本賞と撮影賞も受賞。

2015年には、WOWOW連続ドラマ「贖罪の奏鳴曲」にて、久しぶりの連続ドラマに挑戦し、好評を得る。

2018年には、大学の教職を辞して、再び映画業界に戻る。NHKBSプレミアムドラマ「金魚姫」(2020年3月放送)。

2021年に公開された『空に住む』が遺作となった。2022年3月21日食道がんのため57歳で逝去。